

# 第426回鉄鋼流通問題懇談会

2013年8月20日(火) 14:30

日本鉄鋼連盟4階・第1会議室

## 議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
  - (1) 地区の状況
    - 東京、大阪、愛知、富山地区概況報告
  - (2) その他地区の概況
    - 鉄流懇8月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
  - (3) 総括: 阪上全鉄連副会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2013年11月22日(金) 14:30 ~

於: 日本鉄鋼連盟4階・第1会議室

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について (2013年8月)

発表者 発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	日鐵商事
1. 需給動向(景況感)	参議院選挙以降、景気回復への期待感が高まっているが、足許の荷動きは芳しくない。震災の復興・復旧需要なども今後、本格化することを期待している。高炉メーカーを中心に減産実行の動きあり、流通各社は価格転嫁実行中。	6月末の薄板三品在庫は前月末比2.3万トン増の385.7万トンと2ヶ月連続の増加、在庫率も前月2.19ヶ月から2.25ヶ月に上昇している。今回は熱延鋼板を中心に増加しており、冷延ミル火災の影響を受け、前工程の熱延が増えたのも一因と考えられるが、在庫水準としては高く、もう一段の在庫調整が必要である。	6月末の厚板在庫は347千トンで前月比3千トン減。4ヶ月ぶりに出荷が受入を上回り、在庫減となった。また、在庫率は202%と4月以降改善している。足元の需給に締りはなく、市況も依然として盛り上がりは欠くが、後はメーカーの定修が予定され、先々の需要も底固く推移するとの見方から需給は改善すると期待する。	棒鋼：関東地区の7月の発注数量はスクラップ価格高騰の懸念により27.7万トと3月以来の20万ト超えとなった。しかし中堅セコムの明細中心であり大手のプロジェク案件等は秋口に動いてくると思われる。 形鋼：各メーカー共に値上げを表明しており、着実に浸透しつつある。代表品種であるH形鋼市況も、週を追って上昇している状況。現状@71.0~72.0、盆明けには@75.0を唱えて行きたい。
2. 需要産業動向	建築関連では、住宅ローン減税、消費税増税前の駆け込み需要も想定され、住宅着工戸数も前年度増加が見込まれるため、住宅メーカー及び関連資材メーカーは好調の状況。造船も船価の底打ち感等から新造船発注の動きあり、受注急増。一方、建機関連は国内の排ガス規制の法改正を見越した駆け込み需要後の反動も予想され、輸出も中国向け等で苦戦継続。国内プラント関連も低調状況が続いている。	7月度の政府月例経済報告によると、「景気は着実に持ち直しており、自立的回復に向けた動きもみられる」とし、3ヶ月連続で上方修正した。6月の国内自動車販売は乗用車、トラック共に前年割れとなり、四輪車全体では前年同月比12.4%減の41.6万台と2ヶ月連続で前年水準を下回っており、エコカー補助金終了の反動が続いていると思われる。産業機械分野では、内需は民需、官需ともに前年を上回る高い伸びとなった一方、外需は産業機械、工作機械の低迷を原動機的大幅増でカバーし、全体では前年を上回る高い伸びとなっている。弱電分野は、民生用電機が4ヶ月連続で前年を下回っており、民生用電子も大幅な減少が続く、全体では13ヶ月連続で前年を下回っている。5月度の年率換算着工戸数は102.7万戸と4年7ヶ月ぶりの100万戸を超え、年率換算着工床面積も5,664万㎡と4ヶ月連続で5千万㎡を上回っており、高水準が続いている。	造船の6月手持工事量は2,563万G/Tで前月比21万G/T減となったが、円安の影響からか輸出船の契約量は増加。建設機械の6月出荷金額、内需は前年同月比25.0%増(700億円)、外需は17.0%減(1,155億円)、総合計では4.9%減(1,855億円)となり、11ヶ月連続の減少となった。国内向けが好調さを保つ一方、輸出の低迷は続いている。産業機械の受注金額は合計で前年同月比88.8%(3,988億円)。内需は96.0%(2,502億円)、外需は78.9%(1,486億円)となり建機ほどの盛り上がりはない。建築は物流倉庫の他大型建築案件も動き出し、橋梁は昨年度案件の製作開始で今後回復するとみる。	棒鋼：6月の新設住宅着工戸数は84,000戸(前年同月比114%) 消費税率アップ前の駆け込みの影響もあり今後の鉄筋需要増加が期待される。しかし鉄筋工事の労務不足問題は解消されておらず需要増加の足枷となっている。 形鋼：鉄骨需要は13暦年上半期18.8%増の257万ト。震災復興需要に加え、大都市圏の再開発案件・物流施設の堅調な需要がけん引。地区別にみると東北地区29.8%増、首都圏は19.7%増。暦年500万ト超えが現実味。
3. 輸出入動向	2013年6月度の溶鍛接鋼管輸入量は、対前月比△82%の11,588トンとなっている。大部分を占める韓国材の輸入量も同様に前月比△80%の8,995トンとなっている。	5月の普通鋼鋼材輸入は韓国、中国からの入着減少を受け、前年同月比18.1%減の32万トンと2ヶ月振りに減少した。一方、全鉄鋼輸出はASEAN向けは13ヶ月連続の増加となったものの、韓国、中国、米国向けが減少した結果、前年同月比8.4%減の368万トンとなり、7ヶ月ぶりの減少となった。	6月の輸入実績は31千トンで前月比4千トン減。円安の影響からか4月以降減少が続く。輸出は280千トンで前月比16千トン増。	棒鋼：2013年6月輸出18,300mt、内、韓国向け16,191mt、インドネシア向け1,000mt、グアム向け888mt 今年に入り、2009年以来、輸出の途絶えていた米国向け商談が再開。
4. 海外市場動向	油井管：高級品Marketは需要堅調により、受注状況も概ね順調。米国向けはADの影響を見極める必要あり。一般品については中国ミルの供給能力過多を受けて、価格は低位水準のまま。 ラインパイプ：足元市況は軟調に推移。但し、大径鋼管は、大型プロジェクト案件の進展次第で、急激にタイト感が生じる可能性もある。	世界経済は堅調な回復を見せる米国、厳しいながらも景気底入れの兆しが見られる欧州など、穏やかな回復の動きが続いているが、中国では金融市場の不安定さが増幅するなど、景気の先行きに不透明感が強まっている。鉄鋼生産においては、中国は国内需要が緩和するも、5月粗鋼生産は過去最高を更新する6,703万トンで、依然として高水準を維持している。その他、韓国の粗鋼生産は8ヶ月連続の前年割れが続くものの、553万トンと高水準を維持している。米国においては自動車、建設とも順調に推移しているも、粗鋼生産は9ヶ月連続の前年割れとなっている。今後世界の鉄鋼需給動向を引き続き注視する必要がある。	中国市場に需要の盛り上がりは無いが、反面比較的高い生産水準が維持されている。更に8月は例年不需用期となっており、軟弱な市場が続く。	棒鋼：韓国向け輸出商談は、鉄スクラップの国際マーケットの上昇に加え、中国材・日本材のOffer価格が上昇。また、韓国国内の電力事情によるメーカー夏季減産により供給タイト感も予測され、需要は力強さに欠けるものの、流通市況は上昇の兆しを見た。 日本材は8月積みにてCFR@54,000円程度と、先月比より1,500円程度の値上がり。足元はお盆後のスクラップ市況不透明感により、商談は様子見。 形鋼：中国材(特に山型鋼)が広くアジア市場を席卷しており、東南アジアにおいてはシンガポールを拠点に流通網を確立。多くの形鋼ミルを有する韓国においても市場シェアは半数を超え、CFRで\$500/mt以下と日本材や韓国材との差は\$100/mt以上。
5. トピックス				

鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言（2013年8月）

発表者 発表項目	メーカー J F E スチール
1. 需給動向（景況感）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本経済は着実に回復軌道を辿っている。個人消費は堅調なほか、住宅販売も好調に推移している。また、補正予算による公共投資の押し上げ効果のほか、企業業績の回復やマインドの改善により景気を押し上げるパターンが定着する見込み。年度後半には更に消費税駆け込み需要の効果もあり成長率が更に上昇することが見込まれる。</li> <li>・ 国内の7月の粗鋼生産は前年同月比+0.4%の930万トンと5ヶ月連続の前年比プラスとなった。普通鋼鋼材出荷（6月国輸計）は前年同月比2.2%減の602万トンと4ヶ月ぶりに減少した。一方、6月の普通鋼鋼材輸入は前年同月比▲19%の28.1万トンと2ヶ月連続の減少となった。また、6月末の普通鋼鋼材在庫（国内）は561万トンと3ヶ月連続の増加となった。</li> <li>・ 海外では、6月の世界粗鋼生産（62カ国）が、前年比1.9%増の1億3165万トンとなった。うち中国粗鋼生産は6466万トンと前年比+7.4%の増となり、中国ミルの生産は依然過去最高水準であり、世界の鉄鋼需給への悪影響が懸念されている。</li> <li>・ 13年度の鋼材内需は前年比で増加すると想定している。主に自動車生産が円高修正の定着もあり堅調であること、また建設業向けは補正予算効果や住宅投資などを中心に堅調が継続している。</li> </ul>
2. 需要産業動向	<p>〔建 築〕 6月新設住宅着工戸数8.4万戸（前年同月比15.3%増）。10ヶ月連続のプラス。</p> <p>〔自動車〕 6月国内販売41.6万台（前年同月比12.4%減）。</p> <p>5月完成車輸出36.0万台（〃7.2%減）。</p> <p>6月四輪車生産80.9万台（〃9.5%減）。</p> <p>〔産業機械〕 6月工作機械受注 前年同月比12.4%減の952億円。</p> <p>〔造船〕 6月末手持工事量 2,563万GT（前月比0.7%減）。</p>
3. 輸出入動向	<p>〔輸出〕 6月の全鉄鋼輸出は、370万トン、2ヶ月ぶりの増加。</p> <p>〔輸入〕 6月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比19.0%減の28.1万トンと2ヶ月連続の減少となった。国別では、韓国（前年比22.9%減）が2ヶ月連続、台湾（〃0.1%減）が3ヶ月ぶり、中国（〃32.8%減）が16ヶ月連続で減少した。</p>
4. 海外市場動向	<p>中国の6月粗鋼生産は、6466万トン（前年比7.4%増）と過去最高レベルの水準が継続している。（5月6703万トンからは▲237万トンとなったが、日割ベースでは同等の水準）</p>